

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

仙北市プロジェクト「田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクト」における 事後評価調査

1 プロジェクトの目的

田沢湖の再生に向けた湖岸の環境整備等を通じて、環境保全意識の向上に繋げるとともに、田沢湖・クニマスの歴史・文化の継承等を通じて、田沢湖畔の賑わいづくりを推進するほか、地域資源を活かした体験メニューの再構築や、田沢湖とその周辺地域の情報交流を進めることによって、田沢湖、角館、西木が連携した体験型ツーリズムを推進し、田沢湖のみならず市内の観光拠点とも融合した地域振興を図る。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	仙北市		県事業 事業費 (千円) B	総事業費 (千円) A + B
		総事業費 (千円) A	うち交付金 (千円)		
H27. 1. 13	H27～H30	440, 801 (450, 098)	200, 000	16, 518 円	457, 319

※ () 内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○仙北市実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
田沢湖クニマス未来館整備事業	426, 575	197, 000	H27～H30
湖畔の再生に向けた環境整備	579	0	H27～H30
田沢湖畔の賑わいづくり推進	223	0	H28～H30
田沢湖水質改善調査事業	8, 993	3, 000	H27～H29
地域資源を活かした体験メニューの再構築	676	0	H28～H30
田沢湖とその周辺地域の情報交流の推進	3, 755	0	H29～H30
計	440, 801	200, 000	

○県実施事業

事業名	総事業費 (千円)
田沢湖及び玉川の水質調査並びに田沢湖の中和促進に向けた調査研究	15,983
仙台圏や首都圏への情報発信 (※)	535
計	16,518

※教育・観光PR等のための田沢湖とクニマスに関するガイドブック作成経費。

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値	目標値 (H30 年度)	実績値 (H30 年度)	達成率
クニマス未来館の利用者数(人)	—	30,000	18,164	60.5%
白浜の清掃活動への参加人数(人)	100 (H26 実績)	500	400	80.0%
田沢湖畔への入込客数 (※暦年) (人)	553,403 (H25 実績)	660,000	707,638	107.2%
環境学習プログラムへの参加人数(人)	37 (H25 実績)	2,000	1,294	64.7%

4 経済波及効果分析等

本プロジェクトによる経済波及効果は、①ハード事業費支出による効果(613 百万円)、②ソフト事業費支出による効果(11 百万円)、③プロジェクト成果による効果(873 百万円)を合わせると、合計 1,498 百万円であったと推計される。

(単位：百万円)

区 分	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
ハード事業費支出による経済波及効果	403	122	88	613
ソフト事業費支出による経済波及効果	8	2	1	11
プロジェクト成果による経済波及効果	573	195	105	873
合 計	984	319	195	1,498

※表中の数値は表示単位未満を四捨五入しているため合計値は一致しない。

5 その他参考となる事項

○外国人観光客数の増加について

仙北市の外国人観光客数は年々増加傾向にあり、観光の閑散期とされてきた冬期間中も多くの外国人が仙北市を訪れている。特に台湾人観光客は毎年全体の約 40%以上を占めている。

	H28	H29	H30
外国人観光客(宿泊者数)	20,975 人	32,496 人	38,612 人
うち台湾人観光客	10,684 人	13,571 人	15,280 人

6 民間アドバイザーの意見

(アドバイザー：秋田大学大学院国際資源学研究科 教授 石山 大三氏)

(1) 田沢湖クニマス未来館の展示は、環境の変遷、歴史、文化の紹介を中心にして構成されており、よくできた展示だと思うが、今後もしピーターの関心を引きつけるためには、現在の内容を守りつつも、同館の展示内容の分野を広げるなど、検討が必要である。例えば、田沢湖の成り立ちなどの展示を加えることは可能だと思われる。

(2) 仙北市の田沢湖－秋田駒ヶ岳－玉川温泉の地域には、クニマス未来館、秋田駒ヶ岳情報センター、玉川ダム資料室、玉川温泉ビジターセンター等の展示施設があるが、これらの施設の管理組織が異なるために、それぞれが独立した施設となっている。これらの施設が連携できるような体制が構築できれば、自然や環境に興味がある方々にとって、自然を楽しみながらブラタモリ的な知識にも触れることができる興味深い地域になるとと思われる。例えば、上記の 4 施設で見学できる内容の説明資料や乳頭温泉郷、玉川温泉、西木地区の観光ポイント、角館の観光ポイントなども含め、モデル的なツアーコースに沿った見どころなどをまとめた資料があってもよいと考えられる。

(3) クニマス未来館に限らず種々の観光施設では、今後も外国語（英語、中国語、韓国語）での説明を充実させることが必要である。

(4) 田沢湖田沢の下田沢から湖畔の発電所への道路を通ると、田沢湖の外輪山の尾根部を超え、少し過ぎたあたりで、田沢湖の湖面が目飛び込んでくる。十和田湖の発電所も同様だが、田沢湖の印象が強く心に残る。このようなビューポイントをうまく活用できるとよいと思われる。

(アドバイザー：男鹿水族館 館長 本川 博人氏)

(1) 地域の人との連携を密にする

地域の活性化を行うためには、その事業に関わる人をどのように増やしていくかが重要

と考える。その取組として環境学習プログラムの企画造成や、案内人の育成などは有効な手段と考えられる。

地域の方々が教育機関などと連携しながら取り組むことで、地域の風土、観光資源に関する知識量が豊富で、環境保全に関する意識の高い人がさらに増えると思われる。

その成果を教育現場や観光などで訪れた方に還元できるような仕組みづくりができれば、交流人口の増加や多言語化などを通じた集客に良い効果をもたらすものとする。

(2) 賑わいづくりの方法について

賑わいづくりの対応として、新規事業も必要であるが、現状あるものをブラッシュアップするような取組も同時に進める必要がある。

特に、秋田新幹線の停車駅があるメリットをさらに活かすことができるように、ターゲットを定めて不足している要素を強化し、お勧めの観光ルートを提案するようなプロモーションの展開も誘客に効果的である。

(3) クニマス未来館について

今後、クニマス未来館での取組や、県水産振興センターの内水面に関する試験研究などの活動を貴重な資料として展示、情報発信をしていく必要が生じられる。施設の特性として情報、展示更新は重要な要素になるので、計画的な対応を行う準備をしていくことが重要である。

また、生き物を飼育している施設でもあるので、設備、機器の経年劣化への対応も計画的に行う必要がある。

7 全体評価

プロジェクト構成事業については、概ね計画どおり実施することができた。平成 29 年 7 月には、環境保全等を考える教育の場として「田沢湖クニマス未来館」が開館し、同館の利用者数は目標値に至っていないものの、地元の小中学生はもちろん、市外や県外からも多くの方が訪れており、その成果もあって、30 年度の田沢湖畔の入込客数は、当初の目標である 66 万人を上回る約 70 万人を達成している。

また、毎年行っている白浜クリーンアップについては、目標達成には至っていないものの、参加者数は年々増加しており、地元の小中学生も多く参加している。地域の小中学校は、毎年校外学習の一環として田沢湖クニマス未来館を利用しており、地元の環境・歴史等の問題について、白浜クリーンアップの体験と併せて、同館で学術的な面からも学んでおり、環境保全意識の高い人材は着実に増加している。

環境学習プログラムへの参加者数も目標値には届かなかったものの、(一社)仙北市農山村体験推進協議会が旅行業資格を取得したことで、平成 25 年度実績と比較すると 30 年度は約 34 倍まで参加人数が伸びており、成果が現れてきている。

8 今後の方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) 田沢湖クニマス未来館の展示内容の拡充

田沢湖湖底調査等の新たな成果等を紹介する企画展を開催するほか、現在の展示内容に、田沢湖の成り立ちや県水産振興センターでのクニマスに関する調査結果等を加えるなど、展示内容を拡充していくことで、リピーターの獲得につなげる。

(2) 展示施設を核とした観光モデルコースの造成等

田沢湖やクニマス未来館だけでなく、秋田駒ヶ岳情報センターや玉川ダム資料室、玉川温泉ビジターセンターなど、周辺の展示施設と連携を強め、自然や環境に興味がある層をターゲットにしたモデルコースの造成や、このような情報が掲載されたパンフレット作成等を検討する。

(3) 田沢湖歴史案内人の育成

これまで蓄積してきた地元ならではの情報やノウハウ等を継承するとともに、近年増加している外国人観光客への対応など、新たなニーズに対応できる案内人の育成について検討していく。

(4) 地元の強みを活かした賑わいづくり

自然、食、歴史・文化等の魅力的な体験プログラムに加え、田沢湖クニマス未来館を活用した特色ある環境学習プログラムを活かして、教育旅行のさらなる誘致につなげる。

また、海外からの観光客が増加している状況を踏まえ、観光情報や田沢湖クニマス未来館の展示物等の多言語化を進め、外国人観光客の誘客を促進するとともに、冬期間におけるイベントの開催や、秋田新幹線が停車するという利点を生かした仙北市の観光ルートの提案等を通じて、通年型観光へ向けた取組をさらに強化する。

(5) 白浜の清掃活動について

目標参加人数の達成に向けて、近隣の自治会や地域の小中学生へ参加を呼びかけるほか、市外の方々にも参加いただけるよう周知方法の改善を行う。

【プロジェクトチーム構成員】

仙北市	企画政策課、観光課、農業振興課、農山村体験デザイン室、建設課、教育委員会文化財課
県	観光振興課、環境管理課、自然保護課、水産漁港課、河川砂防課、仙北地域振興局、地域づくり推進課（幹事課）